

平成30年度

ブラジル移住110周年記念事業及び
パラナグア市市制370周年記念式典

— 海外派遣報告書 —



淡路市友好親善使節団

淡路市 Awaji City

— 目 次 —

1. 友好親善使節団の概要	1
2. これまでの交流について	2
3. ブラジルへの移住の概要	4
4. 日程及び視察報告	5
5. 各市友好姉妹都市について	11
6. パラナグア市制 370 周年記念式典	13

パラナグア市市制 370 周年記念式典及び



ブラジル移住 110 周年記念事業



— 海外派遣報告書 —

報告日 平成 30 年 7 月 27 日 (金)

報告者 企画政策部秘書広報課 課長 平野由香

I 視察年月日

期 間 平成 30 年 7 月 14 日 (土) ～24 日 (火) 11 日間

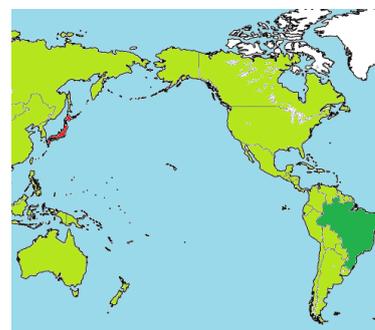
II 淡路市視察団団員

団長 長濱 泰之 【副市長】

副団長 岬 光彦 【市議会議長】

団員 細川 浩一郎【議会事務局次長】

団員 平野 由香 【企画政策部秘書広報課課長】



※この視察に関して、県民交流団（県国際交流協会、日伯協会、県漁連、ひょうご環境創造協会、姫路市、淡路市）として参加。

なお、兵庫県内では、副知事、西宮市、加古川市が其々視察団を組んで参加。

III 訪問の趣旨等

ブラジル・パラナグア市とは、旧津名町が昭和 61 年に友好協力協定を締結して以来、交流を積み重ねており、平成 28 年には金村副市長を団長とする 6 名の使節団が両市の提携 39 周年を記念し訪伯する。

本年は、日本人船「笠戸丸」で神戸港を出港しブラジルへ移住してから 110 年を迎える。この節目の年を記念し、ブラジル各所で記念事業が行われる。

本市も現地祭典委員会より招待を受け、長濱副市長を団長とする使節団を結成、同時期に兵庫県民交流団も結成されたことにより随行し、これを祝った。

併せて、この機会を捉えて 7 月に市制 370 周年を迎えるパラナグア市を訪問し、現地関係者・日系人との意見交換・視察等を通じて両市との交流を推進した。

IV 主な訪問先

ブラジル・パラナ州パラナグア市、マリンガ市、リオデジャネイロ市、クリチバ市、ロンドリーナ市、サンパウロ市

V ブラジル・パラナ州 パラナグア市との交流について

- 1986年（昭和61年）
5月29日 津名町とパラナグア市が友好協力協定を調印
- 1992年（平成4年） パラナ州知事を迎えパラナグア公園の命名式典を開催
- 1994年（平成6年） パラナグア市長ほか津名町を訪問
- 1999年（平成11年） パラナ州知事、パラナグア市長ほか津名町を訪問
- 2005年（平成17年） パラナグア市長ほか淡路市を訪問（ヴァッカ市長）
- 2006年（平成18年） パラナグア市長ほか淡路市を訪問（ヴァッカ市長）
- 2008年（平成20年）
6月16日～26日 廣岡収入役がパラナグア市を訪問（ブラジル移民100周年記念行事）
- 2010年（平成22年）「パラナ州・兵庫県姉妹州県提携40周年」
11月16日～26日 門市長ほか友好親善使節団としてパラナグア市を訪問
11月24日 友好協定宣言書を調印（ヴァッカ市長）
- 2011年（平成23年） パラナグア水族館研修員を受入（兵庫県国際交流協会事業を活用）
- 2012年（平成24年） パラナグア市からの要望について県国際交流課と協議
- ・提灯の寄附
 - ・水産養殖技術研修生の受け入れ
 - ・教師2名を6か月間淡路市に派遣
- 2013年（平成25年） パラナグア市長（ヴァッカ市長）退任に伴う書簡を送付
パラナグア市長（ホッケ市長）就任に伴う書簡を送付
エジソン副市長へパラナグア公園の写真を送付
パラナグア市長（ホッケ市長）逝去に伴うお悔やみ文を送付
日伯協会から寄贈されたイペの木の植樹（日伯協会会報誌に掲載）
- 2015年（平成27年）
1月5日 「阪神・淡路大震災20年追悼式典」への追悼メッセージを受取
4月9日～21日 日本ブラジル外交関係樹立120周年、パラナ州日本人入植100周年、パラナ州・兵庫県姉妹州県提携45周年記念使節団が兵庫県を訪問
(16・21日に淡路市を訪問 エジソン市長ほか26名)
淡路市制10周年お祝いメッセージを受理（ビデオ撮影含む）
- 2016年（平成28年）
5月19日 ブラジル・パラナ州経済訪問団が兵庫県を訪問
(知事主催歓迎レセプション：金村副市長出席)
- 6月29日 日伯協会より寄贈されたイペの木の植樹式（津名パラナグア公園にて）
- 7月26日～8月3日 金村副市長ほか友好親善使節団としてパラナグア市を訪問
(パラナグア市との友好協力提携30周年記念事業)

2017年（平成29年）

- 1月 パラナグア市長（マルセロ・ホッケ市長）就任に伴う書簡を送付
- 4月13日 ブラジル・パラナ州経済訪問団が兵庫県を訪問
（知事主催歓迎レセプション：平野秘書広報課長出席）
- 10月23日 ブラジル・パラナ州経済訪問団が兵庫県を訪問
（知事主催歓迎レセプション：平野秘書広報課長出席）
西森ルイス実行委員長（パラナ州連邦下院議員）から「パラナ州移民110周年記念事業並びに記念式典」に関する門市長宛の招待状を受理

2018年（平成30年）

- 4月28日 日本人ブラジル移住110周年記念行事門市長出席（神戸海洋博物館）
- 5月24日 ブラジル移住11周年記念・兵庫県民交流団結成
- 6月28日 ブラジル移住11周年記念・兵庫県民交流団結団式（神戸国際会館）
- 7月14日～7月24日 長濱副市長ほか友好親善使節団（兵庫県民交流団）としてパラナ州・パラナグア市を訪問
（ブラジル移住110周年記念事業及びパラナグア市制370周年記念事業）

VI ブラジルへの移住の概要

ブラジルはアフリカ大陸から送り込まれた奴隷を農業労働者として重用していたが1888年に奴隷制度廃止を行い、その後、農業労働者不足となりヨーロッパ諸国から移民を受入れ始めた。



しかし、イタリア人移民が奴隷のような待遇の悪さに反乱をおこし、移民を中止したために再び農業労働者不足となった。

これを受けてブラジル政府は、1892年に日本人移民の受入れを表明した。

しかし、日本政府はイタリア人移民の事案を根拠にブラジルへの移民を躊躇した。

一方、明治時代多くの日本人移民を受入れていた米国で、人種差別を基にした日本人排斥連盟の活動が激化した。その会員は400万人を超え、1900年（明治33年）に日本政府は米国への移民を制限した。

また、1904年（明治37年）に起きた日露戦争で日本は勝利をおさめたが賠償金を得られず経済は困窮し、農村の貧しさが深刻になっていたが、アメリカ政府は日本人移民受入れ数の制限を強化し、移民受入れ先として有望視されていたオーストラリアやカナダも日本人移民を制限したことから日本政府は新たに移民の受入れ先を模索することとなった。

1905年（明治38年）にブラジル政府から日本人移民の実施を打診されたのを受けて移民の送り出しを行っていた「皇国殖産会社」が1907年（明治40年）にサンパウロ州と契約を締結し、日本全国で移民希望者を募った。募集期間が半年弱と短く「家族単位で移民」という条件のため希望者を集めるのに苦心したが最終的に781人が第1回の移民として皇国殖産会社と契約を行った。

そして、1908年（明治41年）東洋汽船の「笠戸丸」で神戸港からサンパウロ州のサントス港へと向かった。

こうして、戦争の影響で約10年間を除き1908年から1971年まで63年間に渡り、ブラジルへの移民は実施された。約25万人の日本人がブラジルへ夢を抱き渡航した。



ブラジル日本移民資料館「笠戸丸資料」

VII 日程概要 (※太字は、式典参加等の主要日程)

7月14日(土)

市役所集合(議会: 岬議長、細川次長 秘書広報課: 平野)	16:40
市役所出発 門市長他 お見送り	17:00
岩屋事務所出発 長濱副市長合流	17:30
関西国際空港到着	19:30
関空集合(第1ターミナル JTBカウンター)	20:30
県民交流団出発式(関空内会議室)	21:00
関空発(エミレーツ航空)	23:45



7月15日(日)

ドバイ着	4:50
ドバイ発	7:10
リオデジャネイロ(ガレオン空港)着	14:30
ホテル到着 (ウインザープラザホテル リオデジャネイロ)	20:00



7月16日(月)

リオデジャネイロ市内視察	9:00
ホテル到着	20:30
(マフ・インターテイルム・イグアス・コンパニオン フォスト・イグアス)	

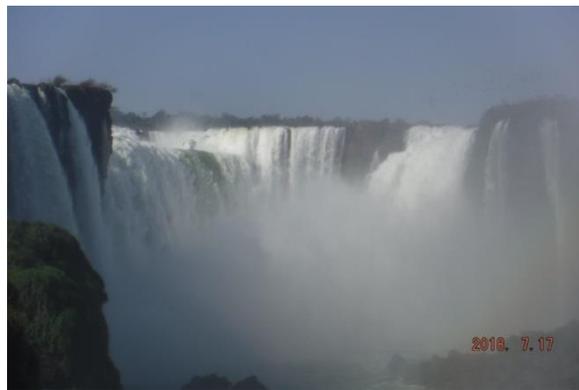


コルコバードの丘からのリオデジャネイロ



7月17日(火)

フォス・ド・イグアス市内視察	9:00
金澤副知事との交流会 (Rafain Churrascaria フォス・ド・イグアス)	19:30
ホテル到着 (マップ・インターナショナル・イグアス・コンパニオン フォス・ド・イグアス)	22:00



イグアスの滝 (イグアス国立公園より)



7月18日(水)

フォス・ド・イグアス発 (アズール・ブラジル航空)	10:45
クリチバ着	11:50
パラナグア市役所着	14:00
パラナグア市長主催歓迎昼食会	15:00
パラナグア市内視察	16:30
パラナグア日本人会主催歓迎夕食会	20:30
ホテル到着 (Camboa Hotel パラナグア)	23:00



パラナグア市役所表敬訪問



ホッケ市長へ門市長のメッセージ伝達

7月19日(木)

クリチバ市へ移動	8:00
イグアス宮殿到着	10:00
パラナ州 110周年記念代表団歓迎式典 (イグアス宮殿)	10:20
ボルゲッティ州知事主催歓迎昼食会 (イグアス宮殿)	12:30
クリチバ日系クラブ主催歓迎夕食会 (クリチバ日系クラブ)	18:00
クリチバ発	20:45
ロンドリーナ着	22:00
ホテル到着 (ブルツリー・プレミアム ロンドリーナ)	23:00



ボルゲッティ知事あいさつ



金澤副知事あいさつ



パラナ州移住 110周年記念代表団歓迎式典



パラナ州との交流協議



パラナ日本人会主催歓迎昼食会

7月20日(金)

ロンドリーナ市内視察(マリンガ市へ移動)

8:00

ACEMA(マリンガ文化体育協会)主催歓迎昼食会

12:00



ACEMA(マリンガ文化体育協会)主催 眞子内親王殿下歓迎昼食会

EXP0110(マリンガ)視察

16:45

パラナ州110周年記念式典(EXP0110マリンガ)

18:00

在クリチバ日本国総領事館主催夕食会

20:30

ホテル(デウール・ビジネス・マリンガ マリンガ)到着

22:30



EXPO IMIN110(マリンガ産業展示会)



淡路市展示ブース



7月21日(土)

ロンドリーナ空港へ出発	3:00
ロンドリーナ発(ロンドリーナ空港)	8:15
サンパウロ着	9:25
サンパウロ 110周年記念式典 (San Paulo Expo)	12:00
日本まつり、兵庫県ブース、 兵庫県人会ブース視察	13:00
ブラジル兵庫県人会のつどい (Tempo de Carne-Blasil)	18:30
ホテル到着 (ブルーツリー・プレミアム・パウルスタ サンパウロ)	22:30



第21回 日本祭り
(フェスティバル・ド・ジャポン)



眞子内親王殿下記念スピーチ



日本祭り会場風景



兵庫県ブース(ラーメン・手巻き寿司)

7月22日(日)

サンパウロ市内視察 9:30
サンパウロ空港到着 20:00



サンパウロ市内視察



ドンペドロ像前にて (兵庫県民交流団)

7月23日(月)

サンパウロ発 (エミレーツ航空) 1:25
ドバイ着 (トランジットのため) 22:55

7月24日(火)

ドバイ発 3:40
関西国際空港着 18:00



VIII 各市友好姉妹都市について

パラナ州（兵庫県と友好姉妹都市提携）

人口：約 1,044 万人 面積：199314.850 km²

ブラジルの南部の州。州庁所在地はクリチバ。パラグアイとアルゼンチンと国境を接する。州の略称は「PR」である。

1853年にサンパウロ州から分割される形で成立した。パラナ州の対蹠地に沖縄県が位置する。パラナ州周辺は日本国内で唯一の陸地の対蹠地である。

人口の75%を白人が占める。この地方への入植そのものは16世紀末に始まったが、19世紀後半にヨーロッパから移民の流入が活発化し、主にポルトガル、ポーランド、イタリア、ドイツ、ウクライナから移民が入植した。20世紀以降は日本やレバノン、シリアからの移民がこれに加わった。現在では東欧からの移民及びその子孫が最も多く、ドイツ系とイタリア系がそれに続いている。

南部地方の他の州同様、アフリカからの奴隷の流入の歴史を持たないため、黒人が占める比率は低い。

パラナグア市（淡路市と友好姉妹都市提携）

人口：約 14 万人 面積：826.7 km²

パラナ州に属し、ブラジル有数の貿易港となっている。1648年建設され、パラナ州で最も古い町である。州都クリチバからは東に94kmの地点にあり、道路や鉄道が通じ、クリチバやパラナ州の外港となっている。米や穀物、バナナ、そして何よりもコーヒーの輸出港として知られ、サントスとリオ・デ・ジャネイロに次ぐ第3位のコーヒー輸出港である。

ブラジルではやや涼しい南部地方に位置しているが、気候は非常に蒸し暑い夏と比較的穏やかな冬で知られている。夏のパラナグアは州内でも最も暑い町であり、盛夏である1月から3月には頻繁に35度以上を記録する。真冬である7月には最高気温が21度から22度、最低気温が13度ほどとなる。寒波が押し寄せると最低気温は10度以下になるが、極稀に5度程度にまで落ち込むことがある。



パラナグア市・淡路市
友好記念シンボルマーク

クリチバ市（姫路市と友好姉妹都市提携）

人口：約 176 万人 面積：430.9 km²

パラナ州に属し、標高およそ940mという州内でも有数の高地に位置し、近郊にブラジル有数の港湾都市であるパラナグアがある。17世紀にパラナ地方において植民都市として築かれたことを起源とする。南部地域最大の都市である。

ケッペンの気候区分では西岸海洋性気候に属する。夏の平均気温は21度、冬は13度。サンパウロに次いで日系人が多い都市であり、その数はおよそ3万人に及ぶ。

マリンガ市（加古川市と友好姉妹都市提携）

人口：約 32 万人 面積：487.9 km²

パラナ州に属し、綿密な都市計画に基づいて建設された新興都市である。原生林をそのまま残した自然公園（インガ公園）を町の中心に配し、縦横に走る道路には、すべて街路樹が植えられ、街全体が緑にあふれている。

農業を中心とした産業は、積極的な工業化政策により、近年大きく変貌を遂げようとしている。また、日系人が多いことでも知られ、政治、経済、文化等のあらゆる文化で日系人が活躍している。

ロンドリーナ市（西宮市と友好姉妹都市提携）

人口：約 51 万人 面積：1,651 km²

パラナ州北部にある都市であり、1930 年にドイツ人移民と日本人移民によって造られたとされた。



IX 7/18 パラナグア市市制 370 周年記念式典（淡路市のみのため）
を通して

パラナグア市の設立記念日は、7月29日であり、毎年その日に合わせ『ボラ祭り』として、約10日間にわたり盛大な祭りが行われる。

今年は、淡路市がブラジル移民110周年式典に参加する際、門市長からのメッセージを届けるのみと伝えたが、ホッケ市長のはからいで、淡路市と県民視察団のためだけに、小規模ではあるが我々が訪問した7月18日に『パラナグア市市制370周年記念式典』を開催してくれた。



ホッケ市長へ門市長の祝電メッセージ伝達

また、当日の昼食時は、県民交流団と共にホッケ市長主催の歓迎昼食会に参加。港町らしいシーフード料理や日系人が当時食していたとされる、いわゆる「奴隷料理」を振る舞ってくれた。

夜には、淡路市視察団のためだけにパラナグア市日本人会主催歓迎夕食会を開催していただいた。パラナグア市に在住の日系1世や2世の方々は、ブラジルに移住した経緯やその当時の暮らし、また、日本の国への敬愛について熱く語られた。移民をされて50年経った日系1世の増田次郎さんは、日系2世の妻と3人の子どもと幸せに暮らされていた。2人の子どもはブラジルで医師として開業をされている。現在、隠居の身だが、いろいろな商売をされて成功者としてパラナグア市で生活をされている。

次郎さんがブラジルに移民した1960年代は、戦前の日本人移民が作った現地の各種組合など受け皿が用意され、戦前に比べ恵まれた環境となり、様々な職種における「技術移民」の割合も多くなっていたため、本人は「さほど、苦労はしなかった。」とおっしゃっていた。



約2時間の歓迎会ではあったが、地球の反対側に日本人が慎ましやかに、しかし力強く、幸福を求め生きていることに言葉にならない愛しさと勇気をもたらった気がした。

一言で、国際交流事業と言ってしまうと少し違和感を覚える。「夢を乗せて・・・」異国の地へと臨んだ日本人が今もなお、7、8世におよぶまで、その地で生き抜いているその様は、飽食の時代を生きる私たちに『警告』を鳴らされているようにも感じた。

「もう一度、全てを見つめなおそう」とスケールが大きく、日本人を受入れているブラジルの地で誓った。

最後に、パラナグア市との交流を続けるべきだと強く感じさせられた訪問であった。